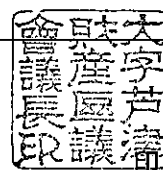


Ver 1.3

オフセット・クレジット(J-VER)制度に基づく 温室効果ガス吸収プロジェクト申請書

プロジェクト名	鳥取県芦津財産区による森林整備活動を用いた温室効果ガス排出削減事業 ——芦津の森 いきいき木こりプロジェクト——
プロジェクト 代表事業者名	鳥取県智頭町大字芦津財産区 議会議長 寺谷 就雄



提出日 2010年 3月 12日

受理日 2010年 3月 17日

最終版提出日 2010年 5月 31日

A:参加者情報

プロジェクト代表事業者 ※1			
事業者名(フリガナ)	芦津財産区(アシツザイサンク)		
住所	鳥取県八頭郡智頭町大字芦津		
代表者氏名	寺谷 就雄	担当者氏名	綾木 章太郎
担当者所属	芦津財産区議会	担当者役職	副議長
担当者 E-mail	s-ayaki@hal.ne.jp	担当者電話番号	090-8062-9952
プロジェクトでの役割	森林所有者		
プロジェクト事業者 ※2			
事業者名(フリガナ)	NPO 法人因幡の山と里(イナバノヤマトサト)		
住所	鳥取県八頭郡智頭町大字智頭 2072 番地 1		
代表者氏名	露木 至	担当者氏名	露木 至
担当者所属		担当者役職	
担当者 E-mail	npo_yamatosato@kdp.biglobe.ne.jp	担当者電話番号	0858-75-4113
プロジェクトでの役割	事務手続き担当		
プロジェクト参加者 ※3,4			
事業者名(フリガナ)			
住所			
代表者氏名		担当者氏名	
担当者所属		担当者役職	
担当者 E-mail		担当者電話番号	
プロジェクトでの役割			
オフセット・クレジット(J-VER)取得予定者 ※5			
事業者名(フリガナ)	NPO 法人因幡の山と里(イナバノヤマトサト)		
オフセット・クレジット (J-VER)口座番号 ※6			
ダブルカウントの防止措 置を講ずる事業者			
	NPO 法人因幡の山と里		
公的な報告・公表制度	該当なし		
自主的な報告・公表対象	該当なし		

※1:プロジェクト代表事業者のパンフレット等、事業内容の説明資料を別途添付すること。プロジェクト代表事業者以外の
主なプロジェクト事業者・プロジェクト参加者についてもパンフレット等を添付すること。

※2:プロジェクト事業者とは、当該プロジェクトの実施に携わる者のうち、実際に温室効果ガス吸収活動を実施する者を

- 指す。プロジェクト代表事業者と同一の場合は、その旨を記載すること。
- ※3: プロジェクト参加者とは、プロジェクト代表事業者・プロジェクト事業者以外に当該プロジェクトの実施に携わるすべての者を指す。
- ※4: プロジェクト参加者が複数いる場合には、それぞれの参加者の役割及び関係の概要を説明した資料を添付すること。
- ※5: オフセット・クレジット(J-VÉR)取得予定者は、プロジェクト代表事業者、プロジェクト事業者、プロジェクト参加者のうちのいずれかであること。
- ※6: オフセット・クレジット(J-VÉR)口座番号は、口座未取得の場合は記入不要。
- ※7: オフセット・クレジット(J-VÉR)の発行がなされる場合、ダブルカウントを避けるための所要の措置をとる義務が生じる。詳細は、オフセット・クレジット(J-VÉR)制度利用約款を参照すること。

B: プロジェクト活動の概要①	
B.1	項目
プロジェクト活動	<p>B.1.1 プロジェクトの目的及び内容</p> <p>鳥取県八頭郡智頭町大字芦津の芦津財産区有林を持続的に管理するため、間伐が必要な人工林を適期に間伐し、健全な水源かん養機能・山地災害防止機能を維持するとともに、光合成による二酸化炭素の吸収を促進する。間伐した森林の二酸化炭素吸収量について、オフセットクレジット(J-VÉR)を取得・販売し、その追加的資金により、次のことを実施する。</p> <p>第一に、芦津財産区の住民を交えて間伐、間伐材の搬出、作業道の整備などを進める。このことにより、林業後継者の育成および森林の多面的機能の発揮が期待される。</p> <p>第二に、都市部の人々を芦津財産区有林に招き、植林・間伐などの体験を通して山に目を向けてもらう。このことにより、山林の現状が理解されるとともに、間伐によるCO₂吸収量の増加および環境負担の軽減を認識してもらうことができ、山林への支持・支援が得られると期待される。</p> <p>第三に、鳥取環境大学と提携し、学生が林業や山村について広く学び、体験できる機会を提供する(添付資料1-2)。このことにより、森林および山村集落の有する機能が自然科学および社会科学の面から評価され、それらを活用した山村集落の新たな価値の創造が期待される。</p> <p>第四に、財産区有林内に森林セラピーロードを設け、県内外の人に明るく開放的な森林を体感してもらう。これによって、森林の持つ癒し効果をアピールでき、芦津の森が人々の休息の場となることが期待される。</p> <p>このように、J-VÉRで得られる追加的資金を活用することにより持続的かつ発展的な森林経営が芦津財産区で行われることとなる。</p> <p>また、本プロジェクトは、自治体あるいは民間営利企業が行う活動ではなく、住民発の活動として全国モデルケースとなるものである。地元集落住民は、「自分たちの山は自分たちで守る」という意識を強く持ち、積極的に森林整備(植林、下刈り、間伐、作業道開設による低コストな木材搬出等)を行っている。このような林業経営に対して、平成18年には林野庁長官賞を授与されている。山林に暮らす住民の自主的な取り組みとしてCO₂オフセットの成功事例を成すことは、後に続く民間活動の励みとなるであろう。</p>
	<p>B.1.2 プロジェクト実施前の状況</p> <p>芦津財産区有林の森林面積は1000ha以上であり、そのうちの人工林は44%である。人工林のうち95%が造林主要樹種であるスギで構成されており、そのうち93%が間伐を必要とする3齢級から12齢級で占められている。</p> <p>また、芦津財産区有林のほとんどが、水源かん養機能・山地災害防止機能の維持増進を図る必要のある水土保</p>

全林であり、機能発揮のため適正な間伐による管理が必要とされている。

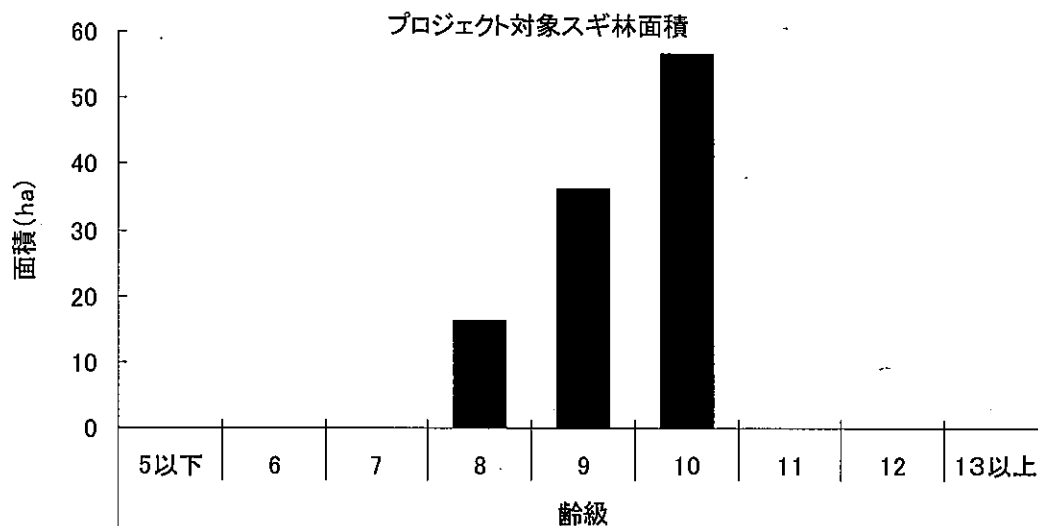
当該地域は鳥取県東部を流れる千代川の源流部に位置し、伝統的に良材を産出する地域として知られている。とりわけ、沖ノ山の天然スギは有名である。芦津地域は昭和の時代に繁栄を極めた智頭林業のなかで主要な役割を果たし、そこで営まれる林業は芦津地域の経済の根幹をなし住民の生活を支えてきた。

しかし、木材価格の低迷などによりその様相は一変し、林業経営として立ち行くのが困難になりつつあり、後継者の林業離れが進んでいる。そのことは森林管理の放棄に直結するものである。

芦津財産区の樹種構成

樹種	人工林		天然林		その他	合計
	スギ	広葉樹	針葉樹	広葉樹		
面積(ha)	470	32	69	565	3	1135

本プロジェクト対象地の樹種構成



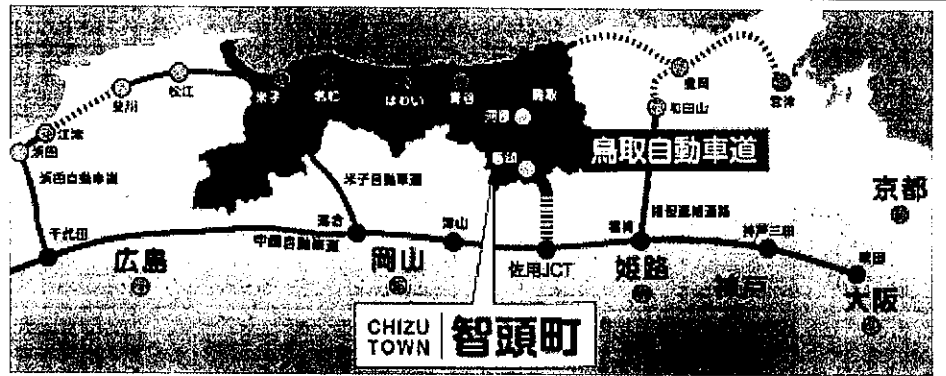
樹種	スギ	広葉樹	合計
面積(ha)	109	0	109

B.1.3 排出削減・吸収の達成手段

芦津財産区有林は、森林施業計画の「森林施業の実施に関する長期の方針」に基づき、長伐期施業として、主伐を標準伐期の2倍の林齢以上の時期に実施する。間伐は30%程度の定性間伐を考慮する。

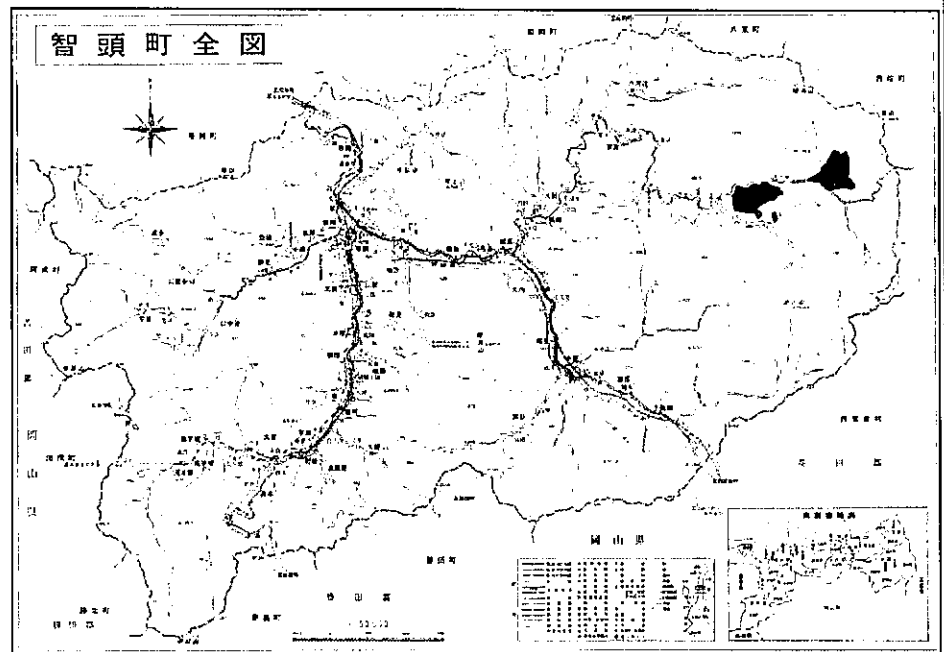
		智頭町森林整備計画(間伐は次の示す事項を標準とする)			
樹種	間伐を実施すべき標準的な林齢				標準的な方法
	初回	2回目	3回目	4回目	
スギ	15～20年	25～30年	35～40年	50～60年	間伐は間伐効果の長期発揮が見込まれる本数間伐率 30%以上の間伐を考慮すること。
B.2 採用 技術	プロジェクトで使用する設備・機器等				
	間伐面積の測定: コンパス(有限会社楠衡器製作所、機械番号 137089)昭和30年頃購入 測量ロープ 樹高の測定: トゥルーパルス 200(精度: ±30cm)平成22年3月購入 胸高直径の測定: 輪尺				
B.3 プロ ジェ クト 実施 場所	実施事業所名	鳥取県八頭郡智頭町大字芦津財産区			
	住所	鳥取県八頭郡智頭町大字芦津字ナカヤマ 782-1(2) 鳥取県八頭郡智頭町大字芦津字ナカヤマ 782-1(3) 鳥取県八頭郡智頭町大字芦津字ナカヤマ 782-1(5) 鳥取県八頭郡智頭町大字芦津字ナカヤマ 782-1(6) 鳥取県八頭郡智頭町大字芦津字ワサビダニ 782-1			

概要



プロジェクト対象地となる芦津財産区有林は、鳥取県南東部の智頭町東部に位置し、森林が広がる地域である。その一部は氷ノ山後山那岐山国定公園となっている。

(東経 134 度 20 分、北緯 35 度 20 分)



B プロジェクト活動の概要②							
B.4 プロジェクト期間		2008年 4月 1日 ~ 2013年 3月 31日 (5年0ヶ月)					
B.5 クレジット期間 ※1		2008年 4月 1日 ~ 2013年 3月 31日					
B.6 想定排出削減 ・吸収量 ※2	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	543	537	708	826	1002	3616
B.7 モニタリング報 告の頻度	1年に1回を予定						
B.8 補助金	受給の有無 (いずれかに○)	受給している / 申請中 / 検討中 / 受給しない					
	補助事業名称	平成21年度鳥取県造林事業					
	補助金額 (申請額含む)	660,744円					
	補助対象年月日	2008年 4月 1日 ~ 2009年 3月 31日					
	補助金を受給している ことを証明する書類	平成21年度鳥取県造林事業補助金概算払について(通知)					
B.9 他制度への申 請 ※3	申請の有無 (いずれかに○)	有 / 無					
	制度名 (有の場合のみ)	該当なし					

備考	<p>(プロジェクトの排出削減・吸収量やプロジェクトの実施に影響を与える現在もしくは将来的なリスク要因(例えば森林火災、気象災害、病虫害やこれらに伴う排出量がプロジェクトの吸収量を上回るリスクなど)を特定し、影響の軽減措置を記述すること。)</p> <p>林野火災および病虫害発生リスクは低いと考えるが不測の事態に備え、次の予防措置をとる。</p> <ul style="list-style-type: none">● 林野火災発生予防措置 委託業者への指導を行い火気厳禁を徹底し、森林火災のリスクを軽減させる。万が一、火災発生時には地域消防団関係機関と連絡を密にしている確かな消火活動を行う。周辺の谷川、湖などを自然水利として消火活動に利用する。● 病虫害発生予防措置 過去10年以上病虫害発生事例はなく、そのリスクは少ない。● 風雪害予防措置 間伐や枝打ちによって風雪害のリスクを軽減させる。
----	---

※1:クレジット期間は、2008年4月1日～2013年3月31日の間で設定すること。

※2:想定排出削減・吸収量の算定根拠をモニタリングプランで提示すること。

※3:海外のVER制度や都道府県等のCO2吸収量認証等、類似制度への申請の有無を記入。これは、一つのプロジェクトによる排出削減・吸収量に基づくクレジットが複数創出される等の、ダブルカウントを避けるためである。

C 方法論の適用		
C.1 ポジティブリストの 適格性基準 との整合性	C.1.1 ポジティブリストの番号	No. R. <u>001</u>
	条件	説明 ※1
	C.1.2 条件1	プロジェクト対象地は、森林法第5条で規定される地域森林計画対象森林に含まれる(千代川地域森林計画)。 資料2 森林施業計画書で、各森林が地域森林計画の林班に所在することが示されている。
	C.1.3 条件2	①プロジェクト対象地は、資料2森林施業計画書、資料3-1 施業計画図、資料3-2 空中写真で森林施業計画対象林であることが確認された。 ②プロジェクト対象地は、資料2 森林施業計画書の長期の方針に基づいて森林として管理するものであり、土地転用は計画されていない。 ③プロジェクト対象地の間伐は間伐率30%程度の定性間伐を考慮する。 ④H20.4.1 以前の施業林分はない。
	C.1.4 条件3	資料2 森林施業計画書は、智頭町森林整備計画に適合するものとして認定されている(認定番号 20-7)。森林施業計画の長期の方針に基づいて、適切な間伐および主伐後の更新を行い、持続的な森林経営を実施する。
C.2 適用方法論	方法論番号	JRAM <u>001</u>
	方法論名称	JRAM001－森林経営活動によるCO2吸収量の増大(間伐促進型プロジェクト)に関する方法論

C.3 適用するガイドライン等	C.3.1 ガイドライン等への準拠	<p>(オフセット・クレジット(J-VÉR)制度モニタリング方法ガイドラインに準拠しない場合の説明)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>準拠の説明</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 全く準拠しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 一部準拠しない</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 全て準拠する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 全て準拠する場合は、説明は不要。</p>	準拠の説明	説明	<input type="checkbox"/> 全く準拠しない		<input type="checkbox"/> 一部準拠しない		<input checked="" type="checkbox"/> 全て準拠する										
	準拠の説明	説明																	
<input type="checkbox"/> 全く準拠しない																			
<input type="checkbox"/> 一部準拠しない																			
<input checked="" type="checkbox"/> 全て準拠する																			
C.3.2 ガイドライン等が複数ある場合の選択	<p>(オフセット・クレジット(J-VÉR)制度モニタリング方法ガイドラインのモニタリングパターンを選択する場合)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>モニタリングパラメータ</th> <th>モニタリングパターン</th> <th>選択の理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動量</td> <td><input type="checkbox"/> 森林 GIS</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 実測</td> <td>間伐面積は、H19 年度芦津地区保安林改良事業平面図(間伐はH20年度に実施)および H21 年度鳥取県造林事業における実測面積を使用する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">拡大係数</td> <td><input type="checkbox"/> 実測</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等</td> <td>汎用性が高い「京都議定書 3 条及び 4 の下で LULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を採用した。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">収穫予想表</td> <td><input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)</td> <td>収穫予想表は地域性が高いので、鳥取県が作成した収穫予想表を採用した。(スギは資料 4-1 の P95~99)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 選択理由の説明においては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所の明示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。</p>	モニタリングパラメータ	モニタリングパターン	選択の理由	活動量	<input type="checkbox"/> 森林 GIS		<input checked="" type="checkbox"/> 実測	間伐面積は、H19 年度芦津地区保安林改良事業平面図(間伐はH20年度に実施)および H21 年度鳥取県造林事業における実測面積を使用する。	拡大係数	<input type="checkbox"/> 実測		<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	汎用性が高い「京都議定書 3 条及び 4 の下で LULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を採用した。	収穫予想表	<input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)		<input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)	収穫予想表は地域性が高いので、鳥取県が作成した収穫予想表を採用した。(スギは資料 4-1 の P95~99)
モニタリングパラメータ	モニタリングパターン	選択の理由																	
活動量	<input type="checkbox"/> 森林 GIS																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 実測	間伐面積は、H19 年度芦津地区保安林改良事業平面図(間伐はH20年度に実施)および H21 年度鳥取県造林事業における実測面積を使用する。																	
拡大係数	<input type="checkbox"/> 実測																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 公表資料、学術論文等	汎用性が高い「京都議定書 3 条及び 4 の下で LULUCF 活動の補足情報に関する報告書」を採用した。																	
収穫予想表	<input type="checkbox"/> システム収穫表 (LYCS 等)																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 文献・資料(行政機関の資料・学術論文等)	収穫予想表は地域性が高いので、鳥取県が作成した収穫予想表を採用した。(スギは資料 4-1 の P95~99)																	
C.4 プロジェクトが実施されなかった場合の状	C.4.1 ベースラインシナリオの特定	<p>(プロジェクトが実施されなかった場合の状態(ベースラインシナリオ)の説明)</p> <p>○間伐促進型：森林を適切な状態に保つために必要な間伐が 2007 年度以降に実施されていない状態。</p>																	

態(ベースラインシナリオ)	(ベースラインシナリオ特定に使用したデータの信頼性・入手可能性)	
	データの信頼性・入手可能性	説明
	<input type="checkbox"/> 低い <input checked="" type="checkbox"/> 低くない	
(森林施業計画通りに施業を実施しない可能性に関する情報)		
施業計画通りに実施しない可能性	説明	
<input type="checkbox"/> 可能性がある <input checked="" type="checkbox"/> 可能性がない		
(プロジェクトの対象である森林が転用される可能性に関する情報)		
転用の可能性	説明	
<input type="checkbox"/> 可能性がある <input checked="" type="checkbox"/> 可能性がない		

C.4.2BLS に 関連した温 室効果ガス 排出源・吸収 源の特定	(温室効果ガス排出源・吸収源)							
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">温室効果ガス排出源・吸収源</th> <th style="width: 50%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源</td> <td>地上部バイオマス、地下部バイオマス</td> </tr> <tr> <td>上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	温室効果ガス排出源・吸収源	説明	森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス、地下部バイオマス	上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし	
	温室効果ガス排出源・吸収源	説明						
	森林プロジェクトで対象となる排出源・吸収源	地上部バイオマス、地下部バイオマス						
	上記に含まれないプロジェクト固有の排出源・吸収源	なし						
リークージに関しては、以下のリストから該当するものがあればボックスにチェックを入れること。また、チェックしたリークージは、モニタリングプランにおいて定量化すること。								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">リークージの種類</th> <th style="width: 50%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加</td> <td>該当なし</td> </tr> </tbody> </table>	リークージの種類	説明	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし	<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし		
リークージの種類	説明							
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外での吸収量を減少させる活動の増加	該当なし							
<input type="checkbox"/> 本プロジェクト実施による、プロジェクト対象地外における排出量を増加させる活動の増加	該当なし							
(温室効果ガス排出源・吸収源を特定するために使用した追加的な基準)								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準</th> <th style="width: 50%;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> 使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> 使用しない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準	説明	<input type="checkbox"/> 使用		<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない			
温室効果ガス排出源・吸収源 特定のための追加的な基準	説明							
<input type="checkbox"/> 使用								
<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない								

C.5 排出量・ 吸収量の定 量化	C.5.1 不確か なデータの使 用	(吸収量の定量化における不確かなデータの使用)	
		不確かなデータの使 用	説明
		<input type="checkbox"/> 使用する	(不確かなデータを使用することによる吸収 量の過大評価がないことを説明すること。)
		<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない	
C.5.2 モニタリ ング対象とな らない排出 源・吸収源	(モニタリングプランを作成する上で、モニタリング報告対象とならないプロジェクト固有の排出源・吸収源が存在する)		
	モニタリング報告対象とな らないプロジェクト固有の排出 源・吸収源	説明	
	<input type="checkbox"/> 存在する		
	<input checked="" type="checkbox"/> 存在しない		
C.6 備考	<p>(モニタリングプロットの設定方法に関する記述)</p> <p>最大 30ha として、プロジェクト対象地について林相を基本に、尾根などを考慮しつつ斜面の中腹にモニタリングプロットを設置した。 添付資料 3-3を参照。</p> <p>(モニタリングプロットに対応した資料の準備)</p>		

※1: ポジティブリストの条件を全て満たすことを、証拠書類等をもとに説明する。説明にあたっては、証拠書類等の該当箇所が明確になるよう、対応ページ・箇所のみ示を行うこと。なお、説明に使用した資料は、名称及び添付資料番号を明記し、巻末の添付資料一覧に整理すること。

D:その他	
D.1 関連する許認可及び関連法令	<p>(想定される関連法令等については、別紙「プロジェクト申請方法について」を参照のこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森林・林業基本法 森林所有者の、森林整備保全に努める責務が規定されている。 2. 森林法 千代川流域森林整備計画、智頭町森林整備計画、伐採及び伐採後の造林の届出、森林施業計画の申請・認定、水源涵養保安林の指定 3. 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等促進法） 該当なし 4. 種の保存法 該当なし 5. 鳥獣保護法 該当なし 6. 騒音規制法 該当なし 7. 景観法 該当なし 8. 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 該当なし 9. 環境影響評価法 該当なし 10. 自然公園法 固定公園第三種特別地域
D.2 ステークホルダー（森林所有者、森林管理者、森林管理費用負担者等）のコメント	<p>芦津財産区議会で J-VER に申請することを承認している。 本プロジェクトに関して芦津財産区と NPO 法人因幡の山と里が連携して活動することを申し合わせている。 J-VER にかかる権利と義務の所在について芦津財産区と NPO 法人因幡の山と里の間に覚書を交わしている。</p>
D.3 その他特記事項	<p>特になし</p>